
「新約のきよめ」

第6章 純潔と成熟

純潔と成熟はちがうもの

純潔⇒種類、あるいは質に関すること

それは神さまに逆らう何ものも含まない、いっさいの混ぜ物がない純粹な状態。
人の中にあるいっさいの罪、腐敗した性質の全体が取り除かれること。
きよめる御霊の全能の力によって、瞬時になされるみわざ。

成熟⇒程度、あるいは量に関すること

それは純潔のすべてとそれ以上のことを意味する。
クリスチャン品徳の成熟・完成。
培養や訓練を含む自然な過程。

この二者を正しく区別することはとても重要。
混同すると、即時の全き聖化に対する反対が生じる。

即刻のきよめ

みことばによれば、それは瞬時的なみわざである。

瞬時的で決定的な行為を表す時制が用いられている。

贖いは成し遂げられ、赦罪を可能にされたのとまったく同様に、罪からの完全な救いも獲得されている。

神の備えは、私たちの義認のために完全であるように、聖化のためにも完全になされている。

聖化が漸進的過程であるとは、聖書は書いていない。

それは信仰によって、得ることができる。

このみわざが人間の働きとして語られることがあるのは、この意味であり、信仰に立った時に得るという意味で、即刻である。

しかし漸進的なきよめもまた聖書の真理

それはすべての不義が追放されているだけでなく、よく調和し、よく均整がとれた、まったく成長したクリスチャン生活に向かうもの。

きよさの増進はあり得ないが、
愛や御霊の実においては永遠の増進がある。

罪が完全に除かれるとき、たましいは完全な健康を回復するが、それは完全な発達をもたらすものではない。

純潔はたましいから病気を追放する。成熟はたましいを活力と美に育て上げる。
純潔は有害な雑草を除いた畑であり、成熟は穂の波打つ収穫。

純潔は成長への最良の準備であるが、完成ではない。

まず純潔 それから成熟

これが神さまが定められた順序。

純潔はクリスチャン生涯の最終目標ではなく、むしろ、より高い水準に向かったの新しい出発点。

成長への土壌を整えるのがきよめであり、恵みの成長を妨げる生来の罪という雑草を抜き去ること。それは信仰によるものであるから現在的、即刻的経験。完全な罪からの解放としてだけ、きよめは現在的に可能。

成熟は、経験や試練や戦いの結果であり、発展の自然で漸次的な過程であり、時を要する。

しかし全くきよめられた人ほど、霊的進歩を熱心に求める。